the People

元気なまちには　元気な主張を続け
元気に行動する　市民がいる

the people（ザ・ピープル）
2015年　7月発行

発　行：特定非営利活動法人 ザ・ピープル
代表者：吉田　恵美子
所在地：福島県いわき市小名浜字蛭川南5−6
タウンモールリスポ内
TEL：**0246−52−2511** FAX：**38−9538**
E-mail：the-people@email.plala.or.jp
URL：http://www.iwaki-j.com/people/

市内30校でコットン育つ

今年オーガニックコットンの栽培に関わる学校は、昨年より大幅に増え、小学校21校、中学校9校、高校1校、合わせて31校にまで広がりました。5月から6月にかけての種まきと定植の時期には、各校で担当先生や本会スタッフの指導のもと、花壇やプランターなどそれぞれの状況に合わせて作業が進められました。そして、どの学校からもすくすくと育っていますとの報告が届いています。

これからは夏休み。約1ヶ月に渡る子供たちの留守の期間この苗たちの見守りには、社会福祉協議会主催のサマーショートボランティアで本会での活動を希望してくれた高校生の皆さんの手も借りようと計画されています。まだ僅か2、30cmの背丈しかないコットン苗たちですが、この夏の暑さの中でグングン背丈を伸ばし、9月に子供たちの日焼けした笑顔が戻る頃には、子供たちの身長を追い越すほどに育っていることでしょう。そして、秋の収穫に向けて楽しみが膨らみます。

太平洋・島サミットが後押し

今年の栽培拡大に大きく寄与してくれたもの。それは、5月22、23日にいわき市内で開催された「第7回太平洋・島サミット」夫人プログラムでのコットン苗定植作業の採用でした。島嶼国首脳夫人の皆様と市内の子供たちが交流できる場として、サミット各国の歓迎横幕を作成した市内14校の児童生徒の代表が藤原小学校に集まり、島サミット応援隊の高校生たちが事前に種を蒔いて育てておいたコットンのポット苗を首脳夫人とともにプランターに植え付ける作業を行いました。プランターにはコットン栽培で協力してくれている磐城農業高校の生徒の皆さんの手で島嶼国の名前を書き込まれたプレートが付けられていました。

首脳夫人のエスコート役である安倍昭恵夫人は、ふくしまオーガニックコットンベイブTシャツを着用してこの場に現れ、子供たちとの交流を盛り上げてくださいました。

定植されたコットン苗は各学校に持ち帰られ、秋まで子供たちの手で育てられることになっています。

企業との連携

●東京スター銀行

企業協賛圃場第1号となった東京スター銀行の圃場に、7月11日、20名の行員の皆さんとその家族の方々がやってきました。行っていただいた作業は草取りです。約1反の圃場の畝間に伸びていた草を皆で丁寧に刈っていきました。当日は、偶然TBSの取材カメラが入ることになり、慌ただしい中にも充実感にあふれた活動日となりました。

東京スター銀行のイメージカラーであるオレンジで塗られた看板を前に撮影した記念写真からは、参加くださった行員の皆さんの意気込みが伝わってきました。

●株式会社チクマ

大阪に本社を持つ学生服などのメーカーである株式会社チクマは、「もったいないスクール」の取り組みを通して以前から本会と連携をもってきました。そしてこの度、本会が進める「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」も後押ししたいと、チクマが進める服育(衣服を通して学びを提供する活動)関係の展示会…「服育MUSEUM」の中で大きく扱っていただくことになりました。会場のスタッフは全員、本会のリサイクルウール綿とコットンの殻で作ったブローチを胸に、来場者の対応にあたる事になっています。

展示会の開催日程は以下の通り。一般の方の来場も可能です。

服育のわ（輪）・わ（話）・わ（和）　―みんなで咲かそ、服育の花ー

お茶の水女子大学特任講師内藤章江先生による制服に関するセミナーや新しい制服ファッションショーなどが催される予定です。

■東京　8月4日㈫−5日㈬　10:00〜19:30(4日)　17:00(5日)
秋葉原UDX4Fギャラリー　(千代田区外神田4−14-1)
■大阪　8月20日㈭−21日㈮　10:00〜18:00(20日)　17:00(21日)
グランフロント大阪北館B2F　コングレコンベンションセンター
(大阪市北区大深町3-1グランフロント大阪ナレッジキャピタル)

●イオングループ

イオングループでは、チアーズクラブという店舗を拠点とした小中学生対象の環境教育事業を通年で開催しています。全国各店で数多くの子供たちが環境問題に関する取り組みを学ぶこの事業。今年のテーマは「植物」ということで、「ふくしまオーガニックコットンプロジェクト」を教材として取り入れてみたいとのお話を頂きました。そして、各店で独自に実施するプログラムの中で、種蒔きからコットンを育てる体験やコットンベイブづくりの体験も盛り込まれ、早速いくつかのグループから種の提供依頼が届きました。

私たちが子供たちに、オーガニックコットン栽培を通して届けたいメッセージ。それは、福島における東日本大震災の後農業の現状だけではなく、通常は農薬を多用し大量の水を汚しながら育てられるコットンという作物の現状を知ることで、もう一度自分たちの身の回りの問題に関心をもってもらいたいということです。こうしたメッセージの伝えられる機会をこれからも徐々に広げていきたいものです。

つぶやき

「継続は力なり」と言うけれど、震災後から今もってどうにも止まらない形で継続していることが一つある。毎週月曜日になると取り組む仕事。いえこれは仕事ではない。仕事の合間に1時間ほどかけてタマゴを売ってあげている。又あげていると言うのは私自身が商売をしている訳ではないからである▼タマゴといっても只のタマゴではない。ウコッケイと殻が青色のアローカナという生みたてのタマゴ100個ほどをお得意様(?)数軒に欲しい数を聞いて届けるだけだから余り負担とは思っていない。とは言っても震災後丸4年だから周りからはいい加減この辺で止めたらと言われる。しかし、私自身このタマゴを食べて元気を頂いていると勝手に信じているからなかなか止められない▼始めたキッカケはこうである。原発事故直後、全町民が避難した楢葉町。川内村に隣接する乙次郎地区にお住まいの坂本恵悟さんは沢山の動物達(鶏・犬・ウサギ・ヤギ等々)を見殺しにできず避難勧告を無視。その地を頑として動かなかった。その様子を紹介したNHKの報道番組に釘付けとなった私は、早速連絡を取った。その後の数回にわたる支援の詳しい経緯は、本紙「つぶやき」で紹介した。「300羽近い鶏が生むタマゴはどうしているんですか」と聞くと「全部捨ててます」との事。「それは勿体ない。放射能検査をして大丈夫だったら売ったらどうですか」と言った。早速30個程を預かり検査して貰ったが数値は不検出。「大丈夫、自信を持って売れますよ」と軽く言ってしまいスタートしたタマゴ売りである▼最初のうちは200個近いタマゴを預かり、余りの多さに困り果てた事もあったが、なにせ鶏に時々生むのを休んで貰うわけにはいかないし、お盆もお正月も関係ない。季節や天候に関わらず生み続ける。私の取り組みに呆れる人、感心する人、笑う人等いるが「ま〜私が元気でやれる内はやるわ」と余り気にもせず今もって続けている次第▼毎月500個程をここ4年間近く売っていることになる。「本当にあり難く感謝です」との坂本さんの言葉を聞くと「継続することのチャンスを頂いた私こそ有り難いです」と返事したくなる。楢葉町もいよいよ9月には避難指示が解除される。坂本さんも販売先を地元に探しているとのこと。私のタマゴ売りも終わりに近づいて来てる感じだ▼ところで被災地ガイドで富岡方面まで行った時などこのタマゴの話をするとバスの中は大いに盛り上がり笑いの渦。楽しい交流の輪が広がる。そんな中で「お歳は」と聞かれる。臆せず「73歳ですよ」と答えてしまう。「嘘、若いですね〜」とまた盛り上がる。お世辞だと判っていても嬉しいもので、内心「ウコッケイさんのお蔭よ有り難う」と呟いてしまう私である。　甘南備